

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：五島 誠

<p>実施場所：一橋大学学術総合センター</p>	<p>実施日：令和4年5月19日・20日</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 日本自治創造学会 研究大会 ・講演 日本のデジタル政策 ・講演 人口減少・成熟社会のデザイン ・講演 地域活性化に資する経済産業省の取組について ・事例発表及びパネルディスカッション～民間人の活躍で地方活性～ ・講演 元気な地域をつくるのは、当事者の視点 ・講演 新しい千葉の時代を切り開く</p>	
<p>■参考とすべき事項 ・AI が示す日本の未来は「都市集中型」と「地方分散型」も分岐点があった。2025年～2027年ごろまでにどちらかを選択し必要な政策を実行するべきである。つまりそこまでに地方分散するための経済支援やまちの魅力化に取り組んでいかなければならない。 ・少子化＝若者の経済不安、生活不安 ・ドイツの事例：中心部からの自動車の排除と「歩いて楽しめる街」ウォークブルシティ、人間の顔をしたスマートシティ。 ・小さな地域で自給自足に取り組む ⇒ グローバルな問題の解決 ・ポスト情報化、デジタル化時代は「生命、時間、空間」の時代。エネルギー自給など永續地帯を創り上げることで自己実現、世界実現を。そのためのソーシャルベンチャー。 ・持続可能な地域づくり ⇒ 地域の主体者が世代を超えて現れ続ける。地域らしさの継続 ・関係人口 ⇒ 挑戦に共感する応援者 ex：関係資本経営 ・広告とは販促だけではなく、好かれるために行う。 ・面白法人カヤックの鎌倉での取り組み（評価制度で企業文化、理念を創る。まちの社員食堂。カマコン、もっと気軽に参加できるまちづくり組織。アイデアを出し合うのがポイント。やりたくなる、出番を自ら創る） ・まちのコイン：日本円に変えられないコミュニティ電子通貨。コインが循環し続ける仕組み。仲良くなる通貨。まちの文化、価値観通貨。お金の再設計。 ・プロっぽい大人が正解らしきものを若者へ伝える ⇒ 正しさよりも楽しそう、かっこいい、カワイイ、オシャレ。説明不可能な言葉、事柄を生み出す。正解よりも気になる興味。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・若者がゆるいまちづくりを行う土壌を創っていく必要がある。何とか界限の人たちだけが行う田舎のまちづくりから、その界限にいなさそうな、でもまちの将来のために大事な存在の若い世代（中高生や学生、子育て世代まで）へシフトしていかなければならない。実験⇒発見を通して新しいナニカを生み出していく。そんなまちづくりがあつてしかるべきと考える。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：國利 知史

<p>実施場所：一橋大学学術総合センター2階一橋講堂</p>	<p>実施日：令和4年5月19日～20日</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>2022年度日本自治創造学会 研究大会 「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」</p> <p>全国の地域活性化に取り組む自治体や企業の先進事例を知り、国のデジタル政策や地域活性化の取り組みなどを理解し参考とすることで、地域経済の衰退化が課題の本市の活性化に活かすことを目的に参加した。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○デジタル社会に向けて国の方針に従って、乗り遅れないように取り組むことが必要であると感じた。デジタル化は業務の効率化や、職員の負担を減らすなどの効果が期待されるが、導入期にあたる今後数年は早期に業務の習熟度を上げていく必要があると感じた。</p> <p>○若者のローカル指向は間違いなく進んでいる。愛郷心を育てることは必要である。拡大＝成長＝集団で1本の道を作る時代から、個人の自由度が高く多様な働き方や生き方を自らが創造していく時代になった。今後は幸福度や生活の質を高めていくまちづくりを行っていかねばならないと感じた。</p> <p>○海士町は海に囲まれており、山に囲まれた本市とは自然環境や人口規模は違うものの、本市同様に人口減少が続く自治体であったが多子化を実現するなど地域全体が元気な町となった。移住者の声に耳を傾け、意見を取り入れ、活躍できる町にしていかねばならないと感じた。リーダーがその人の出番を作ることが重要であり、活躍の場を作ることが必要である。リーダーがキーパーソンになると感じた。</p> <p>○地域の活性化とは、その地域に住む人がどれだけ楽しく元気に活動していけるかということになると感じた。どれだけ多くの人たちが元気に積極的にまちづくりに関わっているか、無意識にでもまちづくりに参加しているか、当事者意識をもって活動している人が多い町こそ地域の活性化が成し遂げられている町だと感じた。</p> <p>○千葉県知事の講演は、千葉県の取り組みや計画などについての話であった。本市と千葉県は人口や経済などあまりにも自治体としての規模が違いすぎたが、参考となる点は、自分たちの自治体が、立地的にどのような場所なのか、ストロングポイントは何なのか、弱い部分は何なのか、強化すべきところはどこか、などを細かく適切に分析して自治体の将来的な計画を作成していかなければならないというところにある。</p>	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

今回の研修で感じたことは、これからの時代の地域の活性化とは、「その地域に住む住民がどれだけ自主的に活発に活動しているか」ということ。「生活の質がどれだけ豊かか」、また「幸福度が高いか」ということだと感じた。

自治体としての施策や将来の課題解決に向けた取り組みや計画ももちろん必要だが、一番重要なのは住民の方々にどれだけ活発に自主的に動いてもらえるか、導いていくことが自治体としての役割だと感じた。

具体的には

- ◎まずは根本的な部分で郷土愛の醸成が大前提。ふるさとを愛する心が活性化に繋がる。幼い頃から郷土愛を育む教育、地域の特徴を活かし、地域の子どもたちは地域で育てるという本市教育の基本理念を実践すること。
 - ◎移住者を受け入れる体制を強化する。郷土愛を持つ地元住民と、市外からの移住者の新しく斬新なアイデアが化学反応を起こす可能性がある。
 - ◎中学生や高校生、大学生は大人では思いつかないようなアイデアを持っている場合があるので、意見やアイデアを聞く場所を設け、具現化できるように、活動を支援していくこと。
 - ◎庄原に住む子どもたちや若い世代に、これから自分たちが大人になったときにどんな庄原市になってもらいたいかという思いや計画などを募集して一緒になって庄原市を作り上げていくこと。
 - ◎庄原で学ぶ大学生のアイデアや研究など、将来的に有望な研究や論文に関してサポートや支援を行う。学生に限らず、これからの時代に必要と思われる事業に対しての支援を強化すること。
 - ◎市民が無理矢理やらされるのではなく、自ら参加しやすいようなボランティアや、イベントを企画すること。
 - ◎本市の最重要課題である人口減少問題を解決するために、住民自ら独自事業を行う振興区や団体に対して、市としてその活動を支援し全面的に協力していくこと。
 - ◎新規就農者や新規事業の立ち上げなど、自らチャレンジし起業する若い世代への支援を強化して行くこと。
- など、住民が自主的に活発に動く活動を支援する施策を実施することが必要と感じた。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：林 高正

実施場所：東京都 第14回 2022年度 日本自治創造学会 研究大会	実施日：令和4年5月19日～20日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>ほぼ毎年受講している日本自治創造学会 研究大会ですが、コロナ禍で2年間はオンライン開催となっていましたので、3年振りのリアル開催です。会場も明治大学から一橋大学 一橋講堂へと変更となり、「変化への挑戦！～元気な地方を創り出す～」というテーマの本気度が感じられ、ワクワクして参加させていただきました。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>今回も二日間で多くの講演がありました。私は事例発表及びパネルディスカッション～民間人の活躍で地方活性～、が、今の時代にあった活性化策と感じました。海士町の株式会社風と土と代表取締役 阿部裕志氏、株式会社カヤック代表取締役 CEO 柳澤大輔氏、慶應義塾大学メディア研究科特任准教授 若新雄純氏によるパネルディスカッションは、事例発表に基づいたものだったのですが、3名の波長が合ってきた後半は最高でしたね。結果を求めて最初から計画するのではなく、先ず、面白いことをするという発想が大切であること。やるからには徹底的に、途中投げすることなく、決して「諦めない」ことが重要という意見でまとめられました。</p> <p>もう一つ気になる講演は、千葉県知事の熊谷俊人さんによる「新しい千葉の時代を切り開く」でしたが、千葉市議会議員、千葉市長とキャリアを積んでこられ、千葉県知事に就任すると新たな千葉県の方向性を示されたことに、やる気と本気を感じることができました。千葉県の最大の武器は、農業、漁業、観光、工業と何でも揃っていることですが、更に成田空港が日本のハブ空港として機能していることが肝であることが理解できました。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>本市への提言というか、採用してみる価値が十分にあると感じたのは、参考とすべき事項にも書かせていただいた、3名がされた事例発表とパネルディスカッションにあります。海士町はこれまでも研究していますので一定程度は理解しているつもりでしたが、海士町は第二期創生期に入っていると感じました。つまり、Iターンした人たちの子供世代が動き始めています。つまり、よそ者でなくなったのです。一体的発展に進化しています。カヤックは、会社の枠を超えて鎌倉というまちをひとつのコミュニティにしていると感じました。これって、NPOがやっているまちづくりかと錯覚するほど住民を巻き込んでいますが、基本は、楽しむということで、徹底的がつきます。そして、大ブレーク中の「うんこミュージアム」ですが、残念ながら経験がないのでコメントできません。</p> <p>若新さんがやっているJK（女子高生）青春、1000万円、最初はバカバカしいから始まったのですが、JKが考えた意味不明企画を本気で実行し、知らないうちにまちが活性化してきたという、結果を最初から求めないことが成功のカギだったという不思議なお話です。これらの事例は、結果よりも過程を楽しむといえますが、先ずは、行動に移すことです。動きながら考えるでもなく、どう弾けるか分からないワクワク感ですね。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：徳永 泰臣

実施場所：東京都千代田区 日本自治創造学会	実施日：令和4年5月19～20日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>○第14回日本自治創造学会研究大会で、変化への挑戦～元気な地方を創り出す～をテーマにデジタル行政改革担当大臣 牧島かれん他多くの講師陣による講演会、事例発表及びパネルディスカッションが行われた。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○隠岐郡海士町の株式会社風と土との代表取締役 阿部裕志氏による事例発表「持続可能な地域づくりを目指す海士町の取り組み」を発表されました。</p> <p>○私たちは、持続可能で幸せな未来を次の世代に手渡すことを目指している。</p> <p>○今、世界中で、持続可能で幸せな社会を創り出すための新たな可能性が次々と生まれている。再生可能エネルギーや IT を用いた遠隔医療のような「技術」、GNH や SDGs、ティール組織やベーシックインカムといった「考え方や取り組み」。</p> <p>○ここに、1人1人の心の中にある新たな可能性がかけあわさったとき、初めて机上の空論で終わらず、現実にする事が出来ると言われていた。</p> <p>○阿部氏は10年前に海士町へ移住され起業された。私たちは島に暮らし、島の風土を学び島内の関係性を高めてきた。同時に日本各地や世界中で未来を切り拓こうとしている仲間たちと巡りあうことができた。そのつながりから思考を広げ、持続可能で幸せな社会を創り出すためのビジョンやアイデアを描くことができるようになった。</p> <p>○新たな風を取り入れる＋自分の中の風を感じる＝土という現実を創る。</p> <p>○私たちは「何を守るために、何を変えるのか」という問いを大切にしている。守るもの、それは「風土」や「らしさ」といった「本質」の中にある。自分たちが大切にしたいものを守るために、何を変えていくのか。10年前に自分の中に吹く風を感じて海士町に移住してきたが、今もまた新たな風を感じている。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>○地域に根ざしつつ、世界中の新たな可能性を活かした地域づくり事業を進めることが大切で、私たちの住む庄原市のそれぞれの活動を中心に、日本各地や世界中の人たちと手を組み、知見を共有し、地域のビジョン・仕組み・仲間を創っていくことが重要と考える。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。